

平成 22 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名：一戸町高齢者グループホーム

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0373200328		
法人名	株式会社 結愛サービス公社		
事業所名	一戸町高齢者グループホーム		
所在地	〒028-5312 岩手県二戸郡一戸町一戸字田中72番地1		
自己評価作成日	平成 23年 1月 18日	評価結果市町村受理日	平成23年 4月 4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosp/infomationPublic.do?JCD=0373200328&SCD=370>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号		
訪問調査日	平成 23年 2月 10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は町の中心地に位置しており、地域住民の方々の認知度も高いと考えております。また、近隣には保健センターや県立病院があり、保健、医療、福祉の福祉ゾーンが形成されており、利用される方やご家族にも、安心していただける環境となっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同一敷地内には第三セクターの同一法人が運営する特別養護老人ホームや通所介護事業等のほか、保健福祉の行政機関も敷地内にあるほか、道路を挟んで向かい側には県立病院があり医療面での安心がある場所となるなど保健・医療・福祉ゾーンが形成され、利用者・家族には利便性が確保され、従事職員も関係部署等と速やかに連携がとり易い環境にある。法人では年に1回、全ての事業所からの事例報告という形で研究発表を行っており、職員がそれに取り組むことによりケアの質等が高まっている。その結果利用者の個性や必要性を考えそれに応じた環境づくりをすることにより和が保たれ、個性が生かされた支援がなされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

事業所名：一戸町高齢者グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	経営理念と行動指針を基に事業所独自の介護理念を定めている。経営理念は毎朝唱和を行い、常に念頭に置きながら実践にリンクさせるよう努めている。	法人の運営理念を具体化した行動指針を毎朝読み上げて確認しているほか、事業所独自の事業目標を毎年立て、その中の一つの「和を大切にする」は職員だけではなく、利用者とともに実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所の立地環境から、一般的な地域交流は難しいが、他事業所をご近所と位置づけ、朝のラジオ体操への参加や、畑で収穫した果物をお裾分けするなどして、交流を楽しんでいる。	日常的には隣接の特養と交流している。また地元のスーパーに買い物に行くとレジ係の方が対応をゆっくりしてくれたり、行事では地元の神楽や祭りの山車が来てくれたりと地域に浸透している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学者や地域の小・中学生のボランティア活動等の受入を行っている。また、資格取得者の現場実習場所としても活用して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事故対策や災害訓練の様子、感染予防について報告し、それに対する助言や要望、協力を得られており、心強く感じている。	特養と共同開催しており、会議での報告内容に苦情件数等を加えたことが、家族から信頼を得られた。消防団員である委員からは災害時のガス元栓対応の助言を得て災害訓練に生かすことができた等サービス向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の健康福祉課、社協、包括の担当者が運営推進会議の委員であることで、事業所の取り組みに理解があり、相談等の連絡も円滑に行われている。	同一敷地内に行政の機関があり、また電話が内線で繋がっているなど日常的にいつでも連絡が取れる体制となっている。行政側も事業所の内容の理解を深めるために事業所見学を予定している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除マニュアル及び身体拘束排除宣言を作成・掲示し日々の支援に取り組んでいる。	身体拘束の弊害は研修等を通して職員は十分に理解している。ベッド上で活発な動きがある利用者の対応を話し合い、利用者の特性を観察しその利用者にあったケアを適切に行うことで解決するなど、実践に繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について勉強会を行っている。今後も定期的な勉強会を開催していく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	町の健康福祉課、社協、包括との連携を取りながら、必要な場合にはすぐに相談したり、助言を頂ける関係作りに努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申し込みの時点で施設見学を行うことや、概要を説明している。また、家族への協力依頼等も説明し納得を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「ゆうあいだより」を発行し、情報交換の機会としているほか、ご家族からの状況伺いメールや電話にも丁寧にお返事するよう努めている。また、事業所に意見箱を設置し、ご意見を頂けるよう努めている。	意見箱を設置しているが利用されることはなく、家族の来訪時に直接に意見を述べる家族がほとんどである。遠方にある家族はメールで意見を伝えてくるなど意見を述べやすい環境となっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	社長との面談で個人的な意見や相談を述べる事が出来る。また、社長取り扱い提言箱を設置し、スタッフが提言し易い環境作りに努めている。	職員それぞれが個人目標を立て、それに基づいて社長との個人面談を年に1回行っている。職員の意見の中からフリーダイヤルが設置されるなど職員の意見が反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与、労働時間、諸手当等については、就業規則に則り運営している。また、やりがい等については、事業所目標、個人目標を設定しており、その目標の達成に向け頑張れるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社方針として、会社内外の研修に組織的に取り組んでいる。社内研修は研修委員会、社外研修は部長により計画的に行われている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岩手県グループホーム協会に入会しており、協会が主催する研修や定例会等へ参加することで、サービスの質の向上へ向け努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込みの際にご家族から事前の情報を収集し、可能な限りご本人との面談の機会を設けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み、契約の際には事前に時間や場所の調整を行い、十分な時間をかけて説明し納得していただいております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には本人の状態や家族の状況をよく把握・分析し、当グループホームでの対応が難しい場合は、他事業所や担当ケアマネとの相談も行うよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「その人らしさ」を常に考え、生活の再構築を目的とし、出来る事はやっていた。日常生活の全てが機能訓練になると考え支援を行っている。職員が人生の先輩から学ぶ姿勢で支援を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期受診や薬取りは可能な限り家族にお願いをしている。また、面会だけでなく、手紙や電話での交流を含め、家族との繋がりが切れぬように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前からの馴染みの関係を敬意あつた支援に努めている。例えば、家族や知人の面会を職員も大切にお迎えするよう努めている。また、電話や手紙なども本人の喜びとなっており、継続していきたい。	交流のある特養の入所者は地元の方が多く、家族・友人・親戚・担当民生委員の訪問などもあり、馴染みの関係は継続できている。また、家族が訪問できない時などには家族との電話や手紙での関係性の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性や、その時の気持ちを見極め、職員が仲介役となり、利用者同士が良好な関わり合いを持てるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した場合でも、その家族や利用者から相談を受けたり、助言を求められる場合には協力する姿勢である。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントにセンター方式を活用し、本人の思いに寄り添う支援に努めている。意思表示が難しい方へ対しても、ご本人の気持ちを推し量り支援するよう努めている。	一部センター方式を利用することにより職員が利用者の思いや意向を把握するきっかけ作りとなり、日常的に把握できるようになってきて利用者の思いの実現に繋がっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族からの情報から、生活歴やこれまでの暮らし方の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を用い、日々変化するご利用者への支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なケア会議を開催し、本人本意の計画を作成するよう努めている。	利用者の思い等を把握し、それに基づき計画を立て、3か月ごとに担当職員がモニタリング等を実施し、計画の見直しを行っている。担当職員は実際に行っているケアが計画となっていくことを理解し、実現可能な計画としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個別記録から浮き彫りになる課題をケアプランに活かし、より良い支援が出来るよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族からの要望で、急な外泊や外出などにも対応している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の交番に協力の依頼や情報提供を行っている。また、運営推進会議などを話す機会を設けることで、民生委員や包括支援センターとの協力体制作りにも努めている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人とご家族の面会の機会とする為、通院をご家族に依頼し協力を頂いている。また、受診者の情報を主治医宛に提供し、事業所と病院との関係作りも努めている。	受診援助は家族が行っているが日常の様子は事業所で受診者情報提供書に記入して家族が医療機関に持参している。受診者情報提供書には医療機関からも記入ができる様式となっている。	現在二戸地域の福祉・医療機関で入院・退院・入所の情報提供の共通化について検討している。夫々の機関が情報を共有することは、利用者の安心に繋がり、充実されることを期待する。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師の訪問が毎日(夕方)あり、利用者の様子を報告し、助言頂いている。緊急時の相談にも応じて頂いている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関との会議を毎月1回行い、情報交換や意見交換などを行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	併設の特養とも連携がとれ、嘱託医とも良好な関係を築けているため、情報の共有は出来ている。グループホームだけでなく、他事業所との連携において、重度化した場合でも会社全体で支援していく体制作りにも努めている。	終末期になると医療的対応が多くなり、各々の事業所の特質を生かして会社全体で看取りの支援をするよう中長期計画に盛り込んでいる。また家族にも話題提供していくことを検討している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備えマニュアルを整備している。また、社内研修での救急講習(心配蘇生法)にて実践を想定した訓練も実施している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時対応マニュアルに沿った災害避難訓練を隣接する事業所と合同で行っている。また、運営推進会議の中でも意見交換を行っている。	特養とグループホーム合同の避難訓練を年2回実施、それ以外にも会社全体での避難訓練を2回行っている。避難訓練は火災だけではなく地震を想定した訓練や夜間を想定した訓練も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護マニュアルを作成・見直しをしており、常にプライバシーには細心の注意を払っている。申し送り時や電話対応時にも、注意している。	ソフトな声掛けを心がけ、職員同士のコミュニケーションにも気を付けるよう徹底している。利用者の呼び方も個々に異なるため家族の了解を得て利用者に応じた名前や愛称などで呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な限り本人の希望や要望を引き出す努力をしている。また、自己決定が出来るよう、選択肢を示すような工夫も行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしさ、その人を中心とした支援を念頭に置き、毎日を穏やかに過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望やご家族からの要望を踏まえ、いつまでもおしゃれが出来るよう支援している。理容・美容に関しても希望に合わせて、店や髪型を決めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で自分達が育て、収穫したもので、共同調理できることが楽しみの一つになっている。食事の盛付けや後片付けも共同で行っております。	職員が交替で献立を作成し、下拵え等利用者の能力に応じて共同で行っている。献立は会社の栄養士からチェックを受け、偏食気味の利用者のために万遍ない食事が必要である話をしてもらうなど栄養に気を配っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取については、職員側の声掛けで水分量が確保できるよう支援している。また、食べる量は一人一人に合わせた量を把握し支援に繋げている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口臭や虫歯、義歯の劣化(不具合)などに気をつけて口腔ケアに努めている。歯科衛生士の協力も得ながら努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	居室ごとにトイレがあり、プライバシーは確保できている。個人の排泄パターンを把握し、誘導や声掛けを行っている。排泄の失敗があった場合でも、本人を傷つけない言葉掛け等、配慮している。	利用者毎の排泄パターンを知ることにより必要な時間誘導により失敗が少なくなるなど排泄の自立に繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ下剤に頼らないよう、水分摂取や運動不足解消(散歩や体操)に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は午後としており、希望があれば毎日入浴できる体制をとっている。毎日全員のバイタル測定は行っているが、入浴者については入浴後に再度バイタル測定を実施している。仲の良い利用者同士入浴することもある。	毎日入浴できる体制をとっており、拒否した場合は時間をずらしたり、翌日にしたり、又、複数で入浴すると安心する利用者には複数で入浴するなど気持ちよく入浴できるように留意しながら、最低週2回以上入浴するように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜の歌番組やニュースを見る方や早起きして朝食の準備をする方など、就寝・起床時間は個々に応じて支援している。薄明かりがなければ寝付けられない方などにも対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬の種類・用法・用量についても、スタッフがすぐに確認できるようまとめている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	普段の会話の中からヒントを得ながら、個別的な楽しみや役割、時には集団でできる事など、自己実現を達成できるよう支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩の希望や、買い物の希望があった時は可能な限り対応している。また、お盆やお正月、地域のお祭り等々、その時期にしか味わえない楽しみも工夫して支援している。	散歩道やトイレが整備され静かな御所野公園に出掛けたり、ショッピングセンターで買い物したり、コミュニティセンターの演芸会や展示物の見学をしたり、また特養ホームでラジオ体操したり、天気や外気温を考慮しながら様々な支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談し合い、ご本人が所持する金額を決めている。施設の自動販売機や訪問販売(ヤクルト・パン・理髪等)で使用できるように支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば施設内から電話をかけられるよう支援している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂に続く談話コーナーが配置されゆったりとした空間がある。天窗からの採光も良く、全体的に清潔で皆が心地良く集える空間作りになっている。床下温水暖房方式で、床下全体を暖め、暖まった空気が吹き出口を通り室内を循環し穏やかな暖房効果が表れるよう工夫している。	共用空間に作られている天窗は冬には日光が入り自然の明るさで落ち着いた雰囲気である。夏は風通しがよくなり、エアコンの使用も少なく気持ちよく過せるよう工夫されている。ホールは広く利用者はソファ等自分の好きな場所でゆったりと過ごしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士で食事が出来るようテーブルの位置を工夫したり、共有スペースには出来るだけ日常生活や行事の思い出の写真を飾っている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が大切にしていた物や、使い慣れた物、慣れ親しんだ物を持ち込んでいただき、自由にレイアウトしている。寝床もベッドがよいか、畳に布団が良いか本人の希望を優先に考え、今までの生活スタイルを継続できるように工夫している。	ベッドと箆笥が設置されているが先祖の位牌や利用者がこれまで慣れ親しんだものが持ち込まれている。テラスに洗濯物を干したり、利用者が自宅での生活を継続できるように配慮した支援がされている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー、ユニバーサルデザインが活用され、手すりや昇降手洗い場等が設置されている。段差もない為、安全な歩行も可能であり、そのことで本人の役割も増えている。			